



# なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠

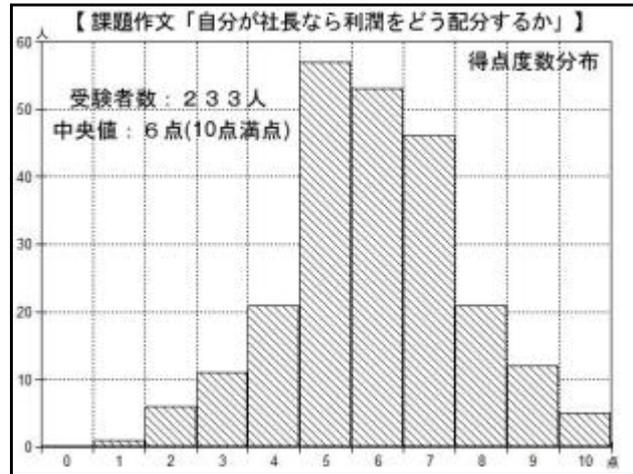


No.37

## 課題作文「自分が社長なら利潤をどう配分するか」のまとめ

2学期期末試験の「課題作文」の成績の中央値は6点で、5人の答案が満点の10点でした。全体的な傾向で言えば、これまでは、作文の成績は伸びてきていましたけれども、今回は少し厳しい結果になりました。それは「作文課題」が、かなり高度だったからだと思います。

今回の課題「自分が社長なら利潤をどう配分するか」は、1学期から学んできた公民の視点「対立と合意」「効率と公



正」を土台にして、企業の目的や企業の社会的責任をふまえつつ、株式会社の社長の役割を具体的に考える内容でした。ここまでの学習の総復習でしたから、自分でかなり深いところまで調べて考えないと書くことのできない「作文」だったと思います。

### 1 どのように課題をとらえ、作文をどう書けば良かったのか

#### (1) 対立関係を明確にして、効率的で公正な利潤の配分方法を考えよう

企業の生産活動の最大の目的は利潤を得ることです。そして、得た利潤を何にどれくらい配分するかで、企業が果たす社会的な役割が見えてくるとも言えます。

さて、株式会社の利潤の配分で、利害が直接的に対立するのは、会社(地域貢献を含む)・株主・従業員(労働者)の3者の利益です。ですから、利潤を配分する項目を選択する前に、この3者の利益のバランスをどのように取るかを考えることが大切でした。

けれども、答案の作文を読んでいると、多くの人が会社・株主・労働者の3者の関係を説明しないで、いきなり「個々の項目」の選択について言及していました。

まず一番先に、個々の項目がいずれの利益になるのかを確認しておかないと、会社の得る利益だけが圧倒的に多くなり、3者の利益のバランスを失いがちになります。なぜなら、店舗の新設、新商品の開発、翌年への積み立ては、いずれも会社の維持と発展のための手段だからです。さらに、会社を発展させるための効率的な方法だけを検討すると、株主や労働者の利益は後回しにされてしまいます。その結果、会社と株

主、会社と労働者、株主と労働者の間で不公平さを引き起こしやすくなります。

たとえば、会社の取り分が多くなると、株主や労働者の取り分が減るので、株主や労働者の不満は大きくなります。株主は配当で出資した元手を回収するのですから、会社が新規に株式を発行して資本金を増やそうとしても、株主は配当の少ない株式を買おうとはしません(資本金を増やせない)。また、頑張っても賃金の上がない職場で働きたい労働者もいません(労働者不足になる)。

そのように、会社だけが利益を得るような不公正な配分は、他の2者の不満を生み出し、やがて会社の生産活動を停滞させます。そのため、配分方法には効率だけでなく、公正さも求められます。3者の利益の比率を決めてから、項目を選択する方法など、対立する3者のいずれもが納得できるような配分方法の工夫が必要になるのです。

## (2) 会社の成長と社長(経営者)の役割

一般に企業は、利潤を生産のための資金に回して、生産活動をより大きくしようとします(拡大再生産と言う)。そのために、利潤の効率的な活用が課題になります。

生産活動を発展させるには、資本の拡大や生産の三要素(土地・労働力・設備)の充実が必要になります。それらは、今回の課題では、利潤を会社の資金に回す、株式の新規発行(株主の投資意欲を引き出す)、労働者数を増やす、労働者のやる気を引き出す、店舗(設備にあたる)を新設する、などが主なものです(土地の取得は考えません)。

「積立金」の理由を、抽象的に「予想外の損害に備える」と課題文をそのまま写した作文が多くて残念でした。一般的に、企業は事故や自然災害には損害保険で対応しています(「流通」で学習済み)。ここでは、商品の欠陥の損害賠償費用に備える、原材料の急な値上がりに備える、売り上げが落ちたときの賃金支払いに備える、従業員の退職金に備えるなど、「積立金」の具体的な目的を、自分で調べて欲しいところでした。

また、株式会社の所有者は、出資者の株主です。会社の経営は株主総会で選出した社長に任せます。そのため、社長は会社の経営状況を株主総会に報告しなければなりません。利潤の配分をする場合には、社長は、特に株主が「納得」する案を考える必要があります。この視点について、書くことができていた答案は少数でした。

## (3) 株主、労働者、消費者の立場をどのように理解するか

1株500円の株式の場合、1株15円の配当は、金利にすると3%になります。1年に3%の配当であれば、株主が元の500円を回収するためには、33年以上かかります。これが1株30円の配当になれば、6%の利率ですから17年ほどで元手を回収できることとなります。元手の資金の回収にそんなに長い期間を待てない場合には、株主は持ち株を他の人に売って現金に換えます。

ちなみに、商法の法定利率は年6%です(商法第514条)。この利率を参考にすると、1株500円の6%は30円になります。そう考えると、利潤の多い時に配当に配分する金額は、6万株×30円=180万円が一応の目安になるでしょう。

また、企業は社会に必要なものを生産していますが、それ以外に地域貢献や消費者への利益還元など社会的役割も果たすよう求められています。これらの費用は会社の利潤から負担することになります。なお、負担額は利潤の数%程度までと考えられますが、会社・株主・労働者が得る利益を超える金額は妥当とは言えないでしょう。

一方、会社と労働者の受け取り分は、次のように考えることができます。労働法上、使用者(会社)と労働者は対等な関係にあると考えるのが原則です。この原則は、賃金の決定の際に特に大きな意味を持ちます。つまり、会社：労働者=5：5で利潤を配分することが原則になります。ですが、地域貢献や消費者への利益還元を会社負担とした場合には、会社：労働者=6：4でも不公平ではないと言えるでしょう。

なお、賃金は、働いたことに対して支払われる報酬のことです。給料(月給・日給)だけでなく、賞与(ボーナス)や手当・現物なども含みます。

#### (4) 優先する配分項目で意見が分かれた

今回の作文では利潤をどの項目に優先した配分するかで、意見が分かれました。

作文の説明文とは関係なく、それぞれの項目に割り当てた金額を基準に意見を分類することができます。そして、それらを多くの項目の間でバランスを取ろうとした作文から、特定の項目に集中して配分する傾向の強い作文の順で並べると、右上の表のようになりました。

配分した金額の割合から見た優先度の高い項目と作文数	人数
①会社・株主・労働者・地域貢献のバランスを優先	9
②会社と株主の利益及び地域貢献を優先	12
③株主と労働者の利益及び地域貢献を優先	2
④会社と株主の利益を優先	22
⑤会社と労働者の利益を優先	2
⑥株主と労働者の利益を優先	2
⑦会社の利益と地域貢献を優先	35
⑧労働者の利益と地域貢献を優先	3
⑨会社の利益を優先	121
⑩労働者の利益を優先	25
合計	233

最も多いのは「会社の利益優先」の作文(121人)です。しかし、後で紹介するように、「会社の利益優先」の作文の中でも、多くの人は会社の利益以外の項目にも配分しています。その配分内容には、様々な意見があります。社会科の学習で大切なのは、様々な立場にたって社会事象を理解し、公正な判断をすることです。その視点から、より説得力を感じ取れる作文を探して欲しいと思います。

なお、どの項目が優先されているかどうかは、これまでの検討をふまえ、次の金額を便宜的な目安として区分しました。配当に180万円以上の場合に株主の利益優先、店舗の新設・新商品の開発・翌年への積み立ての合計で1,000万円以上の場合に会社の利益優先、賃金の増額に1,000万円以上の場合に労働者の利益優先、ケーキ教室の開催に90万円以上の場合に地域貢献・消費者への利益還元優先としました。

## 2 作文の課題と採点基準

【採点基準】次の各論点について、社会の現状や友だちの意見に対して、**効率と公正の2観点から検討し**、自分の意見を説明する文章を書くことができている場合に、各々2点を加点する(満点は10点)。矛盾する記述は、0点。

- ① 利潤の配分金額の合計が2000万円になっていること。
- ② 利益配分を受ける主体は、**会社・株主・従業員の3者**である。利潤の効率的な配分と、3者が公平に利益を得ることを同時に考えるべきである。
- ③ 店舗の新設、新商品の開発、ケーキ教室の開催、翌年への積み立ては、いずれも**会社の維持と発展のための投資**であり会社経営の**効率の観点**から優先される内容である。会社が維持・発展しなければ株主や従業員の利益も生まれない。しかし、**公正の観点**からは**株主への配当**や**従業員の賃金**を低いままにして、会社の利益だけを優先することは不公正である。
- ④ 利潤がある場合、**株主には配当**を受ける権利があり、**社長は株主総会**で**利潤の配分方法**を説明する責任を負っている。
- ⑤ 社会貢献をしつつ会社の維持と発展のために資金を確保する、利益配当を増額し株主の投資への意欲を増やす、賃金の増額で従業員のやる気を高める、効率と公正を満たすよう**全体のバランス**を検討している。例えば、4:3:3の配分など。
- ⑥ 経営上無理のない配当の増額は、株主の**投資意欲**をよび、より大きな資金を将来に得るための**効率的な方法**である。他方で、がんばって会社の利潤を生み出している**従業員**が得べき**報酬**との公正さをどのように実現するかが課題になる。
- ⑦ 従業員の賃金の増額を検討する場合は、**正社員と契約社員の賃金格差**をどのように扱うのが課題になる。会社の維持や発展は、従業員の努力や仕事内容に支えられていることは効率的な観点である。さらに、契約社員の賃金が低く設定されているのも企業側の効率的な理由からである。しかし、正社員と契約社員が同じ仕事内容なら**同一賃金**が公正である。
- ⑧ ケーキ教室の開催は、地域貢献として**企業の社会的役割**を果たす意味もあるが、企業イメージの向上につながるPRにもなる**利潤の効率的な活用方法**である。また、消費者にも有益な教育機会であり**利潤の公正な活用方法**だとも考えられる。

Ⅶ 次の課題文をよく読んで、あなたの考えることを作文にのきなさい。

あなたはケーキを製造販売するケーキ@株式会社の社長(経営者)です。ケーキの販売はライバル会社との競争もありますが、売り上げは少しずつ伸びています。特に今年、従業員のアイデアをもとに開発したオリジナルなケーキが好評で、ヒット商品になりました。そのおかげで、今年の売り上げは年間2億円になりました。諸経費を差し引いたあとの**利潤**は2,000万円です。

そして、年度末になり、あなたは経営者として、**利潤の配分**をする必要に迫られています。

あなたなら、この利潤をどのように配分しますか。配分を検討する項目は、次のA～Fの6つです。全部の項目に配分する必要はありません。全く配分しない項目があってもかまいません。

利潤を配分する項目と金額を決めて、項目と金額を決めた理由を説明してください。ただし、利潤の配分を決める際には、下の「注意すべき点」をふまえて考えてください。

なお、解答用紙の「利潤の配分表」に配分する金額を書き入れなさい。配分しない項目があれば、その項目の金額欄には「0」を入れなさい。作文は主に、配分すると決めた項目を選択した理由を中心に書きなさい。

【利潤の配分を検討する項目】

- A 店舗の新設 … 1店舗を新設するのに1,000万円の費用が必要です。
- B 新商品の開発 … 1商品を開発研究するのに500万円の費用が必要です。
- C 従業員の賃金の増額 … 正社員10人と契約社員10人の従業員がいます。3店舗あわせて合計20人です。
- D 株主への利益配当 … いつもは1株あたり15円の利益配当をしています。
- E 子ども向けのケーキ教室の開催 … 1回開催するのに10万円必要です。地域への**社会貢献**として実施します。
- F 翌年への積み立て … 予想外の損害などに備えます。

【利潤を配分するときに、注意すべき点】

- ① 「効率」(利潤を無駄なく活用すること)の観点をふまえていること。
- ② 「公正」(不当に不利益を受ける人がいないこと)の観点をふまえていること。

【ケーキ@株式会社の規模】

企業の種類：株式会社  
資本金：3,000万円  
発行株式数：6万株  
工場兼店舗：3つ  
従業員数：20人

### 3 友達の作品から学ぼう

次に、8点以上の一部の「答案」(25人分)を紹介します。ここで紹介する作文は、優先した項目の内容を中心に分類しています。いずれの作文も、利潤を配分する項目の理由を述べています。それぞれの作者の理由づけ(根拠付け)と、配分の割合に注目して読んでください。きっと新しい学びがあるはずです。なお、いつもの通り、作文の区分基準が正確なものでないことを<sup>あらかじめ</sup>予めお断りしておきます。

「原文」のまま紹介していますので、文中の誤字・脱字は<sup>ごじ だつじ しゅうせい</sup>修正していません。注意して読んでください。「答案」の下の(※寸評:)は、私(倉橋)のコメントです。

#### (1) 会社・株主・労働者の利益と地域貢献とのバランスを優先する作文

**B組 N.T.** Aを0円にした理由は、国内で新店舗を立てたAさんは従業員の理解や能力がうすくなってしまい新店舗だけでなく、他の店舗まで赤字になってしまったと書かれていました。今回の場合も正社員が10人しかいないなかで4つの店舗にするとAさんの場合と同じことがおきるかもしれないと考えたからです。Bを500万円にした理由は、今年の従業員のアイデアをもとにつくられたオリジナルケーキがいつまでも人気だとは考えにくいし、新しい商品を開発することでさらにお客さん呼び込めるのではと思ったからです。また、そのケーキを開発した従業員の達成感など仕事にやりがいを感じてもらえると思うからです。Cを800万円にした理由は、正社員に50万円、契約社員に30万円とボーナスとして賃金をわたすことによって来年はよりボーナスをもらえるようにと従業員のやる気をかき立てることができると思ったからです。Dを180万円にした理由は、1株あたりプラス30円にしようと思ったからです。1株あたりが15円だったところに30円プラスされることで株主の方々が来年はもっとのびるかもしれないと思い、さらに株を買ってくれると考えたからです。Eを120万円にした理由は、月に1回ケーキ教室を開催しようと考えたからです。そして、ケーキ教室に来た子どもの親にさらに商品を買ってもらう機械になると考えたからです。Fを400万円にした理由は翌年に何がおこるかわからないのでそなえとして考えました。最後に、効率の点では無駄なく使え、公正の面ではCで差をつけたことはあるのですが、責任の重さなどからみて公正でその後も公正だと思ったのでこの配分にしました。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	800万円
株主への利益配当	180万円
ケーキ教室の開催	120万円
積み立て	400万円
利益配分結果	0万円
会社受益	800万円
労働者受益	800万円
株主受益	180万円
消費者受益	120万円

(※寸評:この作文は、会社・株主・労働者への配分のバランスを保ちつつ、地域貢献も考えています。配分する理由に説得力があります。特に、店舗を新設しても、従業員の能力が分散され従前の生産性を確保できないかも知れない、と指摘する点はとても光ります。仕事の成果は人数だけで決まるのではなく、従業員の力量が育っていないと従業員を増員しても効果は出ないことがあるからです。さらに、正社員と契約社員に支給するボーナスの格差の理由を責任の軽重で説明しています。残念ながら、「ケーキ教室の開催」を効率の視点だけでとらえていて公正の視点がありません。なお、「買ってもらう機械」は「買ってもらえる機会」ですね。)

#### (2) 株主と労働者の利益及び地域貢献を優先する作文

**A組 T.K.** Bに500万円配分した理由は今年新商品がヒットとなったので次につくるオリジナルケーキも買ってくれると思ったから。Cの1000万円は正社員の労働時間を基準として、正社員に50万円ずつ増やし、契約社員は50万円に対する労働時間の割合だけ受け取る。こうすることで正社員と同じだけ働いた契約社員は同じだけ賃金が増額される。正社員より

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	1000万円
株主への利益配当	180万円
ケーキ教室の開催	120万円
積み立て	200万円
利益配分結果	0万円
会社受益	200万円
労働者受益	1000万円
株主受益	180万円
消費者受益	120万円

労働時間の少ない契約社員もいると思うので、余ると思う。余った金額は新作ケーキを発売した従業員や他に著しい成果を上げた者に分配する。株主への利益配当は利潤が多かったので増額する。Eはケーキ教室を開催することで客数も上がり、売り上げが多くなると思うし、地域に対する社会貢献になると思う。Fは少し少ないような気がするが、無いよりは良いと思ったので200万円にした。配分をしなかったAは現状余裕を持って行うことができないので、もし新店舗の経営に失敗してもそこまで痛手を受けないほどの利潤を得られるようになるまでは新設しない。翌年以降の利潤を増やすためにBやFに配分をしているので、店舗を新設するのは翌年以降にする。

(※寸評:この作文は、消費者の動向も視野に入れて考え、特に、賃金の増額と他の項目に配分することの公正に配慮しています。その結果、労働者の受け取る利益の方が会社が受け取る利益よりも大きくなっています。しかし、「ケーキ教室の開催」を売り上げ拡大の戦略だと理解し効率的にとらえると、「ケーキ教室の開催」の費用は会社の利益だとも考えることができますので、会社の発展を無視して労働者の利益を優先しているとは言えないでしょう。積立金の金額をしぼりこむことで、効率的で公正な利益配分になっています。)

### (3) 会社と株主の利益を優先する作文

**B組 Y.H.** 私はA～Fの配分を以下のように考えました。まず、Aは0円です。1000万かけて増設するのも良いですが、新しく従業員を雇ったり内装のことなど費用が多くかかったりすぎるので、元を確実にとれる見込みのある、利潤が出たときにしたいと思います。次にBは500万円です。今までと同じ商品で勝負するのではなく、1つ商品を新しく作ろうと思います。ケーキといえば女性が多く食べているイメージですが、男性向けの商品を開発して新たに客層を増やして来年の利潤を上げようと思います。次にCは420万円にしました。今年のヒット商品は従業員のアイデアからなので、1人あたり20万円のボーナスにしました。仮に商品開発に関係してくれた人を3人として、その3人には25万円のボーナスを与えようと思います。次にDは300万円です。株主のおかげで経営できているので、15円から50円に引き上げました。次にEは30万円です。今の時代、地域の方々との関わりは大切です。なので、ケーキ教室の開催を年に3回行おうと思います。あくまでも地域交流、地域への社会貢献なので参加費はとらず、低コストでできるケーキを作ろうかと思っています。最後にFは750万円です。今年は2000万円の利潤ができましたが、来年は新しく開発した商品であまり客層がつかめなかったり、ケーキの原材料が高値になってしまうかもしれないので750万円を積み立てようと思います。また、経営に少し余裕がでてきたら地域交流などの一環として小学校、または中学校の1校限定でクリスマス給食などをして少し小さめのケーキなどを作ってみようかとも試してみようかとも考えています。ですが、まずはそれくらいの余裕が出る経営をしたいと思います。

項目	金額
利潤	20,000,000円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	420万円
株主への利益配当	300万円
ケーキ教室の開催	30万円
積み立て	750万円
利益配分結果	0万円
会社利益	1200万円
労働者利益	420万円
株主利益	300万円
消費者利益	30万円

(※寸評:この作文は、店舗の新設をしないことや、新商品の開発に費用をかけることの説明をていねいに行っています。賃金の増額に関しても、貢献度に応じて増額することで労働者間で起こる不公平感を取り除こうと配慮しています。ただ、地域貢献についての説明は方法論に重心が置かれていて、企業が地域社会に果たす役割についての説明のないことが残念です。積立金のねらいは説明できています。)

**C組 S.Y.** 私は次々年度に新店舗を建てることを目標とし、そのために、B、C、D、E、Fを選ぶ。Bを選んだ理由は、ヒットしたオリジナル商品が売れ続けられないかもしれないからだ。流行を取り入れ売り上げをのばすのだ。流行はすぐに去るので2回商品開発をする。そのため、500万円×2回=1000万円となる。Cを選んだ理由は、ヒットした商品は従業員が考えた

ものだからだ。また、モチベーションを上げたり、ライバル社への転職を防ぐためでもある。ここで、正社員と非正規社員同額で月給を1万円ずつ上げる。現在正社員と非正規の賃金格差が問題となっている。酷い所で時給1200円の差がある。だから同額で1万円×12ヶ月×20人=240万円となる。Dを選んだ理由は、利益配当をすることにより、株主への感謝を伝えるためである。ここで、いつもは15円のところを40円にして、40円×6万株=240万円となる。25円上げることにより、会社の価値を上げるためである。Eを選んだ理由は地元の人に知られ、地元の人に愛される会社になるためである。多くの人に知ってもらえるよう、人が集まる夏休みと冬休みに2回ずつ行う。10万×4回=40万円となる。Fは、次々年度に新店舗を建てるための貯金である。2000万-(1000万+240万+240万+40万)=480万円となる。株主と従業員が公平になり、会社の利益にもなるので、よって私はこの5つを選ぶ。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	1000万円
従業員の賃金増額	240万円
株主への利益配当	240万円
ケーキ教室の開催	40万円
積み立て	480万円
利益配分結果	0万円
会社利益	1480万円
労働者利益	240万円
株主利益	240万円
消費者利益	40万円

(※寸評:この作文は、利潤をさらに増やすための方法を徹底して考えていることに特徴があります。店舗の新設よりも商品開発の方が効率的であると判断し、より作業効率を上げるために賃金の増額をボーナスではなく、月給のアップで考慮しています。その結果、他の作文よりも賃金増額率が低く抑えられています。ケーキ教室の開催も売り上げの拡大をねらった効率の観点です。公正に於ける観点からは、正社員と非正規社員同額とし従業員間での不平等をなくすよう考慮して、会社の利益と株主の利益配分についても公正の観点から検討ができています。残念ながら、会社や株主の利益と労働者との間の公平性を忘れていました。)

**E組 A.H.** 初めに、株主へいつもの1株あたり15円を計算する。15円からプラスしていく。2,000万-(6万×15円)=1,910万 一番大切なのは、従業員への賃金である。正社員も契約社員も今日では、苦しい生活をしいられているため、できる限りたくさん増額する。また、正社員と契約社員が同じ労働条件で賃金に差があるのは、不公平なので同じにする。1,910万-(20人×20万)=1,510万 次に考えるのは、株の増額です。ここで重要なのは、株式会社は株主がいなくなるとたたないということです。株主からの資金を元に企業はなりたっています。なので、今回はプラス30円をして1株あたり45円になります。1,510万(6万×30円)=1,330万 次はEの子ども向けのケーキ教室です。地域への社会貢献をすることで、地域の人との関わりが増え、信頼も得ることができるよう売り上げが増えることも見込めます。なので、1ヶ月に1回開催します。1,330万-(12×10万)=1,210万 次にBの新商品の開発です。来年の売り上げを伸ばすには、ずっと同じメニューではなく新商品を出すのも効果的だから。1,210万-500万=710万 最後に残ったお金は全て翌年への積み立てにします。多いからといって損をすることはないので、何かがあった時のために備えておきます。710万-710万=0

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	400万円
株主への利益配当	270万円
ケーキ教室の開催	120万円
積み立て	710万円
利益配分結果	0万円
会社利益	1210万円
労働者利益	400万円
株主利益	270万円
消費者利益	120万円

(※寸評:この作文は、株主への配当を先に考え、残りの金の配分方法を後から考える方法をとっています。従業員の賃金については、生活の厳しさと正社員と契約社員との格差は不公平だと指摘しています。しかし、「ケーキ教室の開催」を効率の視点だけでとらえています。地域貢献の意味について調べ直してください。最も多くの金額を確保した積立金は積極的な目的がなく非効率的な配分になっています。全体的に会社と株主の利益重視になり、労働者の利益との公正さの検討ができなかったために、「一番大切」だと強調している従業員への賃金の増額が、最も低い割合で設定される結果になっています。皮肉な結果です。)

**F組 K.M.** 私は来年のことをよく考え、利潤の分配を行いました。まず店舗の新設はしません。今の工場兼店舗で2億円の売り上げだったから今のままでも充分だと考えました。次にBは、新商品を2つ開発することにしました。今のケーキの種類だけで来年もやっていくのは、ライバル社に客をとられてしまう恐れがあります。次にCは、20人の従業員1人につき20万円ずつをボーナスとして配当します。賃金を上げるとなるとこれからの経営が厳しくなったときに賃金を支払えなくなるかもしれないので、ボーナスとして配分します。次にDの株主への配当は1株あたり45円として配当します。店に利益が多く出た分、いつもよりも多く株主へ配当すべきだと考えました。次にEのケーキ教室は2か月に1回、年に6回開催することにしました。誕生日やパーティでケーキを多く買いに来る家族層の客を増やすためです。そして残った分の270万円を翌年へ積み立てします。授業でやったグループ学習の中で出た意見として、1店舗を新設して客を増やし、その変わり教室の開催はしないというのがありました。確かにケーキの販売を多くできますが、教室の開催によって客との関係を築き、地域に貢献することで多くの利潤を得られると考えました。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	1000万円
従業員の賃金増額	400万円
株主への利益配当	270万円
ケーキ教室の開催	60万円
積み立て	270万円
利益配分結果	0万円
会社受益	1270万円
労働者受益	420万円
株主受益	270万円
消費者受益	30万円

(※寸評:この作文は、今年だけでなく持続可能な会社の発展を視野に入れて、今年度の利潤の配分を考えようとしています。限られた資金の中でのやりくりで、店舗の新設よりも新商品の開発に予算を確保してライバル社との競争に勝つ戦略を建てています。株主への配当も極端に無理をしていません。残念ながら「賃金を上げるとなると・経営が厳しくなったときに賃金を支払えなくなる」としてのは、賃金の意味を正しく理解できていない表れです。ボーナスも賃金の一部です。「月給」だけが賃金ではありませんので注意してください。)

**F組 K.Y.** まず、Aの店舗の新設は、1つ作るだけでも1000万円なので、他の項目も考えると厳しそうだったので0円です。Bの新商品の開発は、従業員のアイデアをもとに開発したオリジナルのケーキが好評だったので、またオリジナルの新商品を作れば、利潤も増えるので、1つ作ります。Cの従業員の賃金の増額は正規労働者に20万ずつのボーナスをあげて、契約社員に10万ずつのボーナスをあげます。これは、従業員の信頼を得るためです。Dの株主への利益配当は、そんなに増やさなくてもいいと思ったのですが、配当を多くすれば、もっと資金が集まり、来年には、Aの店舗の新設も実現できるようなと思ったからです。それに株主総会からの信頼も上がると考えたからです。Eの子ども向けのケーキ教室は、2つの長期休みの夏休みと冬休みに1回ずつすることにしました。それは教室に来たついでにケーキを買ってもらえたり、地域に貢献できて、店の宣伝にもなるからです。Fの翌年への積み立ては、予想外の損害に備えることができるようにします。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	300万円
株主への利益配当	600万円
ケーキ教室の開催	20万円
積み立て	580万円
利益配分結果	0万円
会社受益	1080万円
労働者受益	300万円
株主受益	600万円
消費者受益	20万円

(※寸評:この作文は、株主総会での支持を意識して株主への配当をかなり大きくしています。また、株主総会での支持だけでなく、新株発行による資本金の増資をみすえて配当の増額をねらうなど戦略的な思考をしています。ただ、賃金の増額で正社員と契約社員で格差を付けた理由の説明がない点が残念です。)

#### (4) 会社の利益と地域貢献を優先する作文

**A組 M.A.** まず僕はAの店舗の新設にはお金を使わない。理由は店舗の建設にはとても多くのお金が必要になるし、新設しても建設費などを考えると、利潤が上がると言いづらいからだ。

Bの新商品の開発には500万円使い、商品を1つ開発する。今年新しいオリジナルケーキがヒット商品となったので、来年も流行に合わせたケーキを開発し、利潤を上げようと思う。また、来年には東京オリンピック、パラリンピックも控えているためそれにちなんだケーキも売れるだろう。Cの賃金の増額については、新商品を開発してくれたお礼を含めて、正社員も契約社員も1人13万円ずつ増額することにする。グループ学習では、正社員と契約社員で賃金の差をつける意見が多く出たが、どちらも同じ仕事をしているので賃金に差をつけるのは差別で良くない。Dの利益配当にはいつもより5円増額し1株20円、計20円。計120万円支払うことにする。せっかくいい商品を開発しても、株式を買ってもらえなかったら、資本金が高まらず元も子もなくなる。少しでも配当金額を上げて株を買ってもらうようにする。Eのケーキ教室は月1回開催できるように120万円使う。もし、新商品がヒットしなかった場合に備え、ケーキ教室で知名度を上げておけば売り上げもUPするだろう。Fには1000万円使うことにする。最近南海トラフ地震なども心配されている。もし、地震や火災などで店舗がなくなっても1000万円あれば1店舗を立て直すことができる。僕はこのように配分する。

項目	金額
利潤	20,000,000円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	260万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	120万円
積み立て	1000万円
利益配分結果	0万円
会社利益	1000万円
労働者利益	260万円
株主利益	120万円
消費者利益	120万円

(※寸評:この作文は、グループ学習の際に出た意見に対して、労働者間の賃金格差の公平性を実現したいという自分の意思を明確にしています。しかし、利益配分の面で会社と労働者の間の不公正については気づかずにいます。来年のオリンピックやパラリンピックを販売戦略に組み込もうとするアイデアも書いていますが、全国の店で同じ条件になるので、他の会社との競争に勝つアイデアがあれば説得力が増します。積立金に利潤の半額をさくことは効率的ではありません。ちなみに、災害への備えは損害保険で対応可能です。)

**B組 Y.K.** まず、店舗の新設については、今まで売り上げがじゅんちょうにのびていたとしても、1店舗新たに開くと、従業員もまた何人か雇わないといけず、そんな危険なかけはしなない方が良くと思ったので、やめました。新商品の開発は、半年に1個のペースで考えました。新商品と書いているだけですぐ手にとる私のような客もいるでしょうし、定期的に通ってくれるお客にも、店にくるとき、わくわくしてもらえるからです。従業員への賃金は、夏と冬のボーナスにそれぞれ正社員は10万円ずつ、非正規雇用の人には6万円ずつ出します。また、新商品のアイデアをレポートのように提出してくれると1回1万円(年、1人1回と計算しました)、採用されるとさらに5万円の臨時ボーナスを出し、新たなヒット商品を作るためにも社員の士気を高めます。株の配当については、会社が成長しているので、それにともない、1株25円の配当金にしました。ケーキ教室については、月1回、その季節にあったケーキを作れたらいいと思います。私も小学生の頃、岡本駅にある、あるパン屋さんのパン作り体験に参加したことがあります。とても楽しく、また、とても美味しかったので、家からだいぶ遠いですが、岡本周辺に行く時は、必ずそのパン屋さんでパンを買っています。このように、ケーキ教室の開催は、周辺地域に住む人だけでなく、少し離れた地域の人にも店の名前を知ってもらえ、商品を買ってもらえるチャンスにもなります。翌年への積み立ては、万が一、翌年になんらかの事情でケーキの原材料の値段が高くなった時のために多めに残しました。

項目	金額
利潤	20,000,000円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	1000万円
従業員の賃金増額	350万円
株主への利益配当	150万円
ケーキ教室の開催	120万円
積み立て	380万円
利益配分結果	0万円
会社利益	1380万円
労働者利益	350万円
株主利益	150万円
消費者利益	120万円

(※寸評:この作文は、新店舗の開設のリスクをていねいに説明できています。新商品の開発については、消費者の心理をふまえて考えるなど地道に検討したことがうかがえます。賃金の増額について正社員と非正規雇用

の労働者で格差を付けた理由の説明がないことが残念です。ただ、商品開発のアイデアを出した職員に臨時ボーナスを出すのは効率的でかつ公平のように思われます。自分の小学生の頃の体験を元に消費者動向を説明している点も説得力があります。なお、地域に対する企業の役割の説明がないのが残念です。)

**E組 Y.F.** 今年の利潤は2,000万円あるが、急激に店舗を増やして失敗している企業が多くあるので利潤を求めるため新商品の開発に力を入れようと思う。お客様をあきさせないように半年に1つを目標とし年に2つ作ろうと思う。従業員には、ヒット商品を作ってくれた感謝も込めて、給料とボーナスをアップさせる。社員一律に、給料を月5000円、ボーナスを月10万円増額させる。そのため、1人につき年間16万円増やし20人で320万円となる。意欲を上げるためにも重要だと考える。また、株主にも還元しようと思う。元の額より5円アップさせて、1株20円の利益にする。株主から信頼を得て、株価が上がるかもしれない。さらに、新たな出資者が増えれば来年へもつながっていくだろう。子どものケーキ教室は月1回行う。子どもから大人まで、さまざまな世代に愛される(購入してもらえる)店作りをしたい。子どもに同行してくる大人に興味をもってもらえたら、さらなる売り上げにつながっていくと思う。数年後に積み立て金が1,000万に達したら、新たな店舗の設営も考えていきたい。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	1000万円
従業員の賃金増額	320万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	120万円
積み立て	440万円
利益配分結果	0万円
会社利益	1440万円
労働者利益	320万円
株主利益	120万円
消費者利益	120万円

(※寸評:この作文は、会社の利益を優先しつつ、労働者の賃金の増額と、株主への配当の増額、消費者への利益還元にもバランス良く、広角的に配分していることを簡潔に説明できています。店舗の新設については数年後に計画するなど継続可能な経営方針を示すなど、論旨が一貫していてとても説得力があります。積立金もコンパクトに抑えられていて、積極的で具体的な理由があります。ただ、公正の視点からの説明も欲しかったです。なお、「ボーナスを月10万円増額」ではなく「年10万円増額」でした。)

## (5) 労働者の利益と地域貢献を優先する作文

**A組 M.K.** Bの新商品の開発に配当する金額のうちわけは、1商品の開発確保で500万円である。なぜかという、今年はヒット商品が出たため、この店の客足は増えている。なので、翌年に新商品を出しても、ある程度は得ることができると考えられるからだ。Cの従業員の賃金の増額に配当する金額のうちわけは、20人に50万円ずつで1000万円である。なぜかという、今年ヒット商品が出たのは従業員のおかげであり、そのお礼としてボーナスをはらいたいから。また、翌年もこの店で働きたいと思ってほしいからだ。Dの株主への利益配当に配当する金額のうちわけは、20円を6万株で120万円である。なぜいつもの15円よりも増額したのかという、株主に「売り上げがのびたら配当額も上げてくれる良い会社だ」と評価してもらいたいからである。Eの子ども向けのケーキ教室の開催に配当する金額のうちわけは、10回開催して100万円である。なぜかという、企業は社会貢献をしなければならない。そのため、ケーキ教室を開催することで社会貢献したいからだ。さらに、そのケーキ教室に来た子どものつきそいに必ず親が来る。なので、その親にケーキを買ってもらい売り上げをのばしていきたいからである。Fの翌年への積み立てに配当する金額のうちわけは2000万円からB~Eの配当する金額を引いた280万円である。なぜかという、翌年に、レジがこわれたり、新商品開発がうまくいかないなどのトラブルがあるかもしれない。なのでそのためのために準備しておきたいからである。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	1000万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	100万円
積み立て	280万円
利益配分結果	0万円
会社利益	760万円
労働者利益	1000万円
株主利益	120万円
消費者利益	100万円

(※寸評:この作文は、労働者の存在が会社の生産活動を支えていることに重心を置いて考えています。さらに、

株主への配当の増額も配慮していて、労働者と株主の利益の間の公平性を図っています。ただ、ケーキ教室の開催を社会貢献としていますが、社会における企業の役割についての説明がないことが残念です。どちらかと言えば、ケーキ教室を売り上げ拡大の戦略面に重きが置かれているので、効率面が目立ちます。)

## (6) 会社の利益を優先する作文

**A組 M.T.** 私はまず、「現状維持をしつつ、少しずつ事業を拡大し、貯金をためていく」という目標をたてました。そのため、新店舗開設は必要ないと考え、0円にしました。なぜなら、新店舗設立の資金だけでなく、従業員の賃金、水道代、光熱費などお金がすごくかかるし、リスクを負ってしまった時に対処できる程のお金がまだないので、新店舗設立は資金がもう少し貯まってからにしたいと思いやめました。次に、新商品開発ですが、前回、ヒット商品が開発されましたが、あきらめられてしまう可能性があるため、余力のあるうちに2つ開発しようと思います。従業員の賃金の増額は同一賃金・同一労働の考え方から全員同じ金額で、1人25万円ずつにしました。なぜなら、公正をモットーにしたいからです。次に株主への利益配当ですが、去年と同じ1株あたり15円の利益配当にすることにし、全体で90万円を株にあてました。しかし、そうなると、株主から不満がでる可能性があるため、株主だけに商品の割引券を渡すことにしました。そうすると、経営促進にもなるし、株主も満足になるので、一石二鳥です。次に子ども向けのケーキ教室の開催ですが、従業員が多忙になってしまうのでやめました。そして翌年への積み立ては残った410万円をあてました。その410万円は無駄のないように金利のよい銀行にあずけます。この経営はとても保守的に見えますが、従業員の生活を守る責任が社長にはあるので、賢実な配分をしました。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	1000万円
従業員の賃金増額	500万円
株主への利益配当	90万円
ケーキ教室の開催	0万円
積み立て	410万円
利益配分結果	0万円
会社利益	1410万円
労働者利益	500万円
株主利益	90万円
消費者利益	0万円

(※評語:この作文は、会社の利益と労働者の利益の公平性をめざしながら、計画的に会社の持続可能な発展を目指すことを書くことができます。積立金の額も多すぎず、かなり効率的に利潤の配分をしています。新店舗設立のリスクも説明し、労働者間の賃金格差をなくすことも説明できています。一方で、株主への配当を抑える代わりに商品の割引券の発行を提案するなど、株主の権利についても考慮している力作です。)

**B組 M.T.** 私は次々年度に新店舗を開けることを目標とする。そのため、私は、B、C、D、E、Fを選ぶ。Bを選んだ理由は、オリジナルケーキがずっと売れ続けるとは限らないからだ。流行に乗らないと売れ続けることは難しい。流行の流れははやいので2コ作る。500万円×2コ=1000万円となる。Cを選んだ理由は、従業員のモチベーションを上げるためだ。また、賃金が低いとライバル社に従業員がうつってしまうので、それを防ぐためでもある。正社員と非正社員の差をなくし、1人同額1万円ずつ上げる。最近では、正社員と非正社員の賃金格差が問題となっている。ひどいときには時給1200円も違う。格差をなくすため、同額上げる。1人1万円×12カ月×20人=240万円となる。Dを選んだ理由は、株価を上げることで株主を増やし、会社の価値を上げるためだ。今までの15円に+5円して20円。20円×6万株=120万円となる。Eを選んだ理由は、近所の人に多く知ってもらうためだ。知名度が上がり愛されることで売り上げも増える。一気に多くの人に知ってもらうため、夏休みと冬休みに2回ずつ、計4回行う。なので10万円×4回=40万円となる。Fを選んだ理由は、次々年度に新店舗を開けるための貯金をする。利潤2000万円から、B、C、D、Eにかかる金額を引いて残った600万円を積み立てる。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	1000万円
従業員の賃金増額	240万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	40万円
積み立て	600万円
利益配分結果	0万円
会社利益	1800万円
労働者利益	240万円
株主利益	120万円
消費者利益	40万円

(※寸評:この作文は、会社の利益を最大にすることを中心に、利潤の配分を考えています。ただ、労働者の賃金の増額については、従業員のモチベーションを上げることとライバル会社に引き抜かれることを防ぐという効率性と、従業員間の公平な扱いを同時に視野に入れて検討しています。株主への配当の増額も無理がなく実現できるレベルに抑えています。積立金は新店舗の開設を次々年度に行うという計画性もある力作です。しかし、会社の利益の確保が大きく、賃金の増額が少ない点が、やや公正に課題を残しています。)

**B組 T.H.** まずAですが売り上げは少しずつ伸びているらしいので新しく開くのはまだ早いと考えます。もう少し売ってからでもいいでしょう。次にBですがこれは1つ開発することになります。去年のものがヒットしたなら少し注目もあると思うので新しいのを開発すれば確実に多く買われるので利益が見込めます。次にCですがこれは全従業員に16万5000円ずつ増やそうと思います。正社員と契約社員で増やす額を変えると不公平なので全員同じ額増やすことにします。ここを0にしまうと、ヒットしたのに給料が上がらないことに不満をもらす社員も出てくると思います。次にDですがこれは確実に増やさなければいけません。利益が出たのに配当が変わらない、増えないは支持率が下がります。ここで「少しずつ上がっている」と「ヒットした」を考えて去年の売り上げを1億5000万円と仮定し去年より4/3倍もうけたことにします。となると15円の配当も4/3倍し20円の配当にします。次にEです。社会へ貢献するために外すことはできない項目です。長い休みがあり親子で何かしたいという思いも大きくなるであろう夏に3回、クリスマスでケーキの需要が高まるところで2回入れることによって来てくれる人も増えるでしょう。そしてFです。いくら今年ヒットしたといっても、次の新商品が予想を大幅に下回る売り上げだったり店舗にハンドルミスの車がつこんできたり火事が起こったりと、かなりの不安要素がみられます。なので、新店舗1つをたてるくらいの積み立てを残しておくことにします。

項目	金額
利益	20,000,000円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	330万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	50万円
積み立て	1000万円
利益配分結果	0万円
会社受益	500万円
労働者受益	330万円
株主受益	120万円
消費者受益	50万円

(※寸評:この作文からは、会社の持続可能な発展を視野に入れながら、今年の利潤の配分を考えていることが読み取れます。店舗の新設については慎重にとらえる一方で、今年の売り上げが伸びた新商品の開発を拡大して利潤をさらに増やそうとする積極的な面を見せています。それだけではなく、売り上げが伸びなくなる不安要素も考慮しているバランス感覚が鋭いです。また、従業員の賃金増額を正社員と契約社員との間で格差を認めない点、株主への配当を緻密な計算から割り出すなど、公正な配慮も忘れていません。しかし、少し積立金が多過ぎるので、それらの配慮が金額的には十分反映されていないおそれもあります。)

**B組 K.F.** まずAに配分しなかった理由は、今、利潤の半分も使って新たな店舗を設けるよりも、他のことに使った方がいいと思ったからです。Bは今年はヒット商品が出たことにより売り上げが伸びたので、来年も新しい商品を開発して、さらに売り上げを伸ばそうと思いました。また、Cはすごく大切な項目です。今年は従業員のアイデアのおかげで売り上げが伸びました。なので賃金の増額は必要です。来年もやる気を持って仕事をしてもらいたいし、会社を辞められてしまうことで人手不足にもなりたくないの、1人20万円増額します。Dは、株主がいるから成り立っているの、Dへの配分も大切です。今回は1株あたり20円増額して、6万株で120万円となります。そして、地域への社会貢献も必要だと思うので、Eにも配分します。子ども向けなので、長期(春、夏、冬)休みに1回ずつ開催することにし、計3回で30万円です。最後にFです。950万円は少し多いかもしれませんが、近年、自然災

項目	金額
利益	20,000,000円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	400万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	30万円
積み立て	950万円
利益配分結果	0万円
会社受益	1450万円
労働者受益	400万円
株主受益	120万円
消費者受益	30万円

害が多く、思いもよらぬ損害があるかもしれません。Fを毎年、貯めていくことで、大きな貯金となります。例えば、工場の機械を新しくして、作業効率を良くすることもできるようになると考えたので、今回は何か新しくすることには力を入れないことにしました。なので、この配分になりました。

(※寸評:この作文は、グループ学習をした時の学習課題と、課題作文の微妙な変化に気づかないで利潤の配分を考えてしまっています。それは「株主への配当」のところ「1株あたり20円増額して、6万株で120万円」としている記述でよく分かります。そのため、配当は5円しか増額されていません。しかし、それ以外の賃金の増額の理由については「従業員のやる気」と「辞められると」困る点を明確に指摘していて、効率の側面から考えることができます。ただ、この作文には、公正の視点が弱いのが気になります。なお、自然災害による被害への対策は、損害保険料を支払うことで手当てできますので、あまり大きな費用は必要ありません。)

**D組 H.W.** B … 最近、「おいしいけどカロリーが低いケーキ」などおいしさと体へのやさしさを求める消費者は増えてきている。そのため、新商品としてそれらを開発しようと思う。しかし、体のことの知識も必要になってくるため、その知識が学べる講座に参加したり、専門家を招き教えてもらうなどをしようと考えていて、その費用もBから出す。1商品分にしたのは、2商品にすると、たくさん費用がかかり、翌年への積み立てを多くできないためだ。C … 通常の給料を増額してしまうと、その次の年・その次 … と「どんどん増えていくのでは、」という期待にこたえて、お金が減ってしまうため、ボーナスとして払うことにした(正社員も契約社員も公正にするため同じ金額にした)。調べてみたら、中小企業のボーナスは1ヶ月分の給料くらいで、その1ヶ月分の給料が25~30万円だった。また、パティシエなどのボーナスはだいたい25万円程だったので私も1人25万円にした。ボーナスが年2回ある中小企業もあるそうだが、このまま年2回にすると、翌年の積み立てが少なくなってしまうため今年は年1回とした。D … 今年はヒット商品がでたなどと、利潤が多いため、いつもより5円あげた1株20円とした。これによって「将来性がある」とより多く投資してくれるのではと考えた。E … 限られた2回だが、この教室に参加してもらうことで、店への安心感を得ることができる。また、地域に根付き、地域の人々に好かれ、より多くのお客さんが来てくれるのでは、と考えた。F … 先ほどからあるように、翌年への積み立てを多めに考えた。もし、来年売り上げが伸びなくても、再来年に新商品を開発したり、それに向けて専門的な人を1人雇用したときの年収などの費用をここから出せるようにした。またこれ以外でも何かトラブルが起きたときに少しでも多くのお金があった方が良いと思ったので、来年・再来年、のためにFは多めにした。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	500万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	20万円
積み立て	860万円
利益配分結果	0万円
会社利益	1330万円
労働者利益	500万円
株主利益	120万円
消費者利益	20万円

(※寸評:この作文は、新商品の開発にかなり詳細に検討して積極的に取り組もうとしています。また、従業員への賃金の増額についても、正社員と契約社員との格差をなくす公平な判断をしています。さらに、パティシエのボーナスを調べたりして現実社会の様子も取り入れていて説得力があります。しかしながら、積極的な目的がなければ積立金は効率的な資金の活用とは言えません。来年はともかく、再来年のリスクや賃金まで今年の利潤でカバーしようとするのは無理があります。新株発行で資金を増やす方法もあります。そのような株主の支援を期待するためには、株主への配当の増額をもう少し考えるべきかも知れません。)

**E組 S.K.** 私が利潤をこのように配分する理由 A … 店舗の新設をする際、とてもお金がかかる。もし、新しく店ができたとしてもその店で働く人を新たに見つけて、しかも人けん費を払わないといけなかったり、店の電気代や水道代なども払わないといけなくてコストの多くかかるAは0円とした。B … 新たに商品を開発することによってお店の宣伝にもなるし、そのケーキをお目あてにお店に来た人でも他のケーキもついでに買ってくれる可能性が高い

と考えたため、1商品だけ考えることにして500万円とした。C…いつも働いてくれている従業員の賃金をUPさせたら、従業員たちのやる気も出て、仕事の効率も上がるかもしれない。ただ増額するにあたって、最近、正社員と非正社員の賃金格差が生じている現代社会の問題点をふまえながら「同一労働同一賃金」の考えに基づいて正社員も契約社員も同じだけ増額するようにした。計算式は10万(円)×20(人)=200万円。D…ケーキ会社の売上げが伸びてきているので株主にもそれに見合った配当をしなければならない。なので1株あたりを20円に増やして20(円)×6万(株)=120万円。E…ケーキ教室を開催したら、子供がたくさん来てくれる。しかも子供には必ずしもとはいえないがほぼ親が同伴する機会が多いのでたくさん開催する(1シーズンに2回)→10万(円)×2(回)×4(回)=80万円。F…売上げが伸びてきているとはいっても何が起きるか分からない。このお金で職場の労働環境を改善できる。改善することによって会社として、サービスの質が上がるかもしれない。なので2000万-(B+C+D+E)=1100万と多めに設定した。

項目	金額
利益	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	200万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	80万円
積み立て	1100万円
利益配分結果	0万円
会社利益	1800万円
労働者利益	200万円
株主利益	120万円
消費者利益	80万円

(※寸評:この作文は、店舗の新設をしない理由と、商品開発のねらいを表現できています。従業員のやる気が店の売上げに大きく影響することもふまえて、「同一労働同一賃金」の考えを明確に示して、今日の社会の現状に対する自分の意見を表明しています。しかし、ケーキ教室の開催については地域社会への貢献についての視点はなく、売上げを上げたいという効率の面が目立ちます。残念なのは、積立金に最も大きな金額を当てながら、「職場の労働環境を改善」する内容の具体的な説明がないことです。)

**F組 I.I.** 今回は経営者である父にアドバイスをもらいました。まず、Aは0円。なぜかという、今年はヒット商品の売上げがよかったから、利潤が上がったので、今店舗を新設しても、売上げにはつながらないから。Bは1000万円。なぜかという、今年の売上げが上がったのは新商品がヒットしたおかげなので、今回も新商品を2つ開発します。また、従業員の経験にもなり、従業員を育成できるからです。また、Cは600万円。なぜかという、今年の売上げが上がったのは従業員のおかげということです。でも逆に考えると従業員にアイデアを出してもらって、新商品を開発しないと、この店の売上げはのびないということです。なので、正社員も契約社員も同じ1人25万円のボーナスを渡して、合計500万円です。また次の商品開発の時にヒットした商品を出した従業員2人に1人50万円、合計100万円のボーナスを出すという計画を行います。合計で600万円です。Dは120万円です。今年は特に売上げがよかったので、1株あたり20円とし、5円プラスします。よって20×6万=120万円になります。お金は株主の利益となるので、少なめにしておきます。Eは60万円です。このケーキ教室は1回開催するのに10万かかり、それを3店舗分で、30万円です。これを2回行うので、60万円です。この会社は3店舗しかない小さな会社なので、地元の人に愛され続けるようにという思いで、開催します。Fは220万円。残りを翌年へと残しておきます。

項目	金額
利益	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	1000万円
従業員の賃金増額	600万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	60万円
積み立て	220万円
利益配分結果	0万円
会社利益	1220万円
労働者利益	600万円
株主利益	120万円
消費者利益	60万円

(※寸評:この作文は、店舗の新設を行わずに、新商品の開発で売上げを伸ばすことを起点に効率的な会社経営を考えています。特に、従業員の資質の育成が会社の成長につながることを指摘している点は光ります。また、従業員の賃金の増額について、正社員と契約社員で格差を付けずに、一律にボーナスを支給するだけでなく、商品開発に貢献した者に加給するという二段構えの方法は、効率だけではなく公正さが確保されています。株主への配当の増額も無理のない配分で、労働者と株主の間の公平さも配慮しています。ケーキ教室の開催も無理のない計画で、利潤の配分が効率的な全体的にバランスの取れた力作です。)

## (7) 労働者の利益を優先する作文

**A組 Y.S.** まず新店舗は増やしません。増やすとそれにとまって必要な労働力も増やさなければいけないので、もう少し利潤が増えたときに新設するつもりです。次に新商品は1つだけ開発します。開発したケーキのおかげで今年は売り上げが多かったので作るのにかかる費用も多いけれど、売り上げの増加が見込めます。従業員への賃金は、年末でボーナスの時期なので正社員や派遣社員関係なく、1人60万円ずつ配ります。株主への配当は例年よりも今年は売り上げが多かったので、いつもよりも少し増額で1株あたり17円の利益配当を行います。子ども向けのケーキ教室は2回開催します。冬休みの小中学生や、親戚などの家に遊びに来るような子もいるというので2回行うことにします。ケーキ教室を行うことで、親子に好感度をもってもらい親しみやすいお店づくりができます。また無償で行うことで、社会こう献も行うことができます。翌年への積み立てはあまりの分を翌年になにかトラブルが起きた時に使いますが、昨年、今年用に積み立てた分も残っているので今年はあまり多くは残しませんでした。

項目	金額
利益	20,000,000円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	1200万円
株主への利益配当	102万円
ケーキ教室の開催	20万円
積み立て	178万円
利益配分結果	0万円
会社受益	678万円
労働者受益	1200万円
株主受益	102万円
消費者受益	20万円

(※寸評:この作文は、労働者の賃金を増額するとを念頭において、他の項目への配分を考えるという手法を採っています。売り上げを伸ばそうと計画はしていますが、商品開発も無理はしていません。店舗の新設を行わず、会社経営上の負担を減らし賃金の増額分を確保しようとしています。その傾向は、株主への配当やケーキ教室の開催にも現れています。少しだけ、労働者間の公平性もとりつつ、全体的なバランスを考えた作文だと言えるでしょう。なお、契約社員と派遣社員を混同している点は残念です。)

**A組 Y.N.** (まず、Aの店舗の建設をするために建てる費用の他にも時間や従業員を増加するため、給料も必要だ。これらはリスクがあるため、0円とする) B、C、D、E、Fは、利潤を配分する。Bは、500万円する。なぜなら、ブームしているオリジナルなケーキはいつかブームが過ぎてしまう。そのためにも新しい商品を開発していかないといけない。Cには、新しい商品を開発するためのアイデアやモチベーションを上げてもらうためにも、1人あたり50万円増やす。正社員も契約社員も同じ分働き、これからも働いてもらうためにも平等に50万×20人で1000万円配分する。Dは、株主とこれからも取引してもらうために1株20円×6万株で120万配分。Eには、1シーズンに1回と考え計4回×10万で40万円。Eを開催することでより多くの人に知ってもらうことができる。実際に小学校の頃和食の料理人が来て調理してくれたので、その店にも興味がわいた。Fには、税金が増税するなどの緊急時の対応、3年4年後に店舗の新設もできるように積み立てしておく。このようにすれば効率よく配分できる。

項目	金額
利益	20,000,000円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	1000万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	40万円
積み立て	340万円
利益配分結果	0万円
会社受益	840万円
労働者受益	1000万円
株主受益	120万円
消費者受益	40万円

(※寸評:この作文は、新店舗を増設すると従業員を増やす人件費が増大し、利潤の拡大が確実に見込めるものではないことをリスクとして表現しています。かっこ書きにしている意味は不明ですが、また、今年のヒット商品の人気を維持できるとは言えないので、次の新商品を開発すると持続可能な発展へと視線を向けています。賃金の増額については、正社員と契約社員の格差を付けず平等に配慮しています。株主と「取引」というのは適切な表現ではありませんが、新規発行の株式を引き受けてもらい、資本金を増やそうと狙っていることは読み取れます。小学校の頃の体験を紹介し、消費者の動向を説明している内容は説得力があります。積立金をおさえることで、会社・労働者・株主への配分が、全体的にバランスよくなっています。)

**A組 M.Y.** A：店舗を新設したとしても、従業員が足りなくなり、成功するかどうか分からないから。また、もし、新店舗で売り上げが少なかった場合、企業にとって大きな損失だから。B：今年従業員のアイデアをもとに開発したケーキが好評だったとあるので、もう1つ新商品を作った方がさらに売り上げが伸びると考えたから。また、ライバル会社との競争もあるので新商品の開発をした方が良いと考えた。C：この1000万円の内わけは50(万円)×20(人)=1000万(円)である。同じように働いている20人の従業員を「正社員だから」「契約社員だから」という理由で賃金に差があるのは不公平だと考えたから。D：いつもは1株あたり15円の利益配当をしている、とあるので例年通りにしようと考えたから。E：基本は2ヶ月に1回開催するが、ケーキの注文やケーキを作りたいと思う人が比較的多いクリスマスのある12月には2回開催する。最近では企業の不祥事などで評判が下がってしまう企業もあるため、地域への社会貢献は必要だと考える。F：翌年への積み立ては多ければ多い程翌年の企業がうまくいく確率も上がるので少し多めに配分した。全体としては、企業全体の売り上げや経営に関するものより、従業員や消費者の方々を第一に考え、CとEを多く配分した。企業が売り上げを上げられるのはまず、消費者が商品を買ってくれるからなので、感謝の気持ちを込めて利潤はこのように配分した。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	1000万円
株主への利益配当	90万円
ケーキ教室の開催	60万円
積み立て	350万円
利益配分結果	0万円
会社収益	850万円
労働者収益	1000万円
株主収益	90万円
消費者収益	60万円

(※寸評:この作文は、株主への配当をおさえることで、会社と労働者の受け取り分を確保しようとしています。ライバル社との競争を視野に入れ、新商品の開発を取り入れる積極的な経営姿勢を表しています。従業員の賃金の増額については正社員も契約社員も同じように扱い平等を確保しています。残念なのは、積立金の積極的な目的や使い道を考えずに「多ければ多い程翌年の企業がうまく」としている意味は不明なことです。むしろ、利潤を効率的に使っていないことになってしまいます。資金は活用してはじめて意味を持つからです。)

**C組 M.N.** まず、翌年だけでなく、再来年やこれから先、ずっと利潤が増えるように考える。Aは、もし新しい店舗ができたなら、確実に利潤は増えるが、従業員なども必要になるので負担が大きいため、5年後に新しくつくと考えていく。Bは、今売れているオリジナルケーキもいつかは売れなくなってしまうので、新しい商品は必ず必要である。Cは1人50万×20で正社員も契約社員も同じ金額ずつ増やす。社会の現状としては、差があるが公正に考えるべきだと思うので同じにする。Dについては、株主には、配当される権利があるし、これから株主が増えてほしいので増額で(15+3)×6万とする。Eは、これを行うことによって社会貢献を行い、CSRとしてや店のイメージUPにつながるから。私が小学生の時に、プロの料理人が来て下さって、味覚のことを教えてくださって、そのプロがするお店に行きたいと思った経験があったり、ある証券会社は、地元の小学校や中学校に出張授業として、株式のことを教えに行ったり、しているので、このような社会貢献は必要だと考え、1シーズンに1回すると考え、4×10万とした。また、他にもボランティア活動に参加して、社会貢献を行うつもりだ。Fは、5年後新店舗がつくれるように、積み立てるお金と、翌年は、何が起こるか分からないし、もし材料の値段が上がったとしても、何か災害が起きてしまったときにも対応できるようにするため。このように私は、今年の利潤を配当する。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	1000万円
株主への利益配当	108万円
ケーキ教室の開催	40万円
積み立て	352万円
利益配分結果	0万円
会社収益	852万円
労働者収益	1000万円
株主収益	108万円
消費者収益	40万円

(※寸評:この作文は、新店舗の増設を5年計画で考えるなど、持続可能な発展を視野に入れた深い思慮を表現しています。今年の人気商品もいつかは売れなくなると、将来を見ずして新商品の開発に利潤を活用すべきだと明確に効率的に考えることができている。また、自分の小学校の頃の体験を元に、消費者の心理を推理しケーキ教室の開催を考えています。この部分は、公正と言うより効率の視点ですが、ボランティア活動

に言及し、地域への社会貢献の側面にも配慮しています。とても広角的な配慮のある力作です。ただ残念なのは、株主が配当を受ける権利があるとしながら、配当の増額に対して消極的な姿勢をとっていることへの理由の説明がないことです。なぜなら、株主は会社の所有者ですから後順位になる理由が必要で。

**C組 Y.M.** まず、Bに配分した理由は、今年は従業員のアイデアをもとに開発したケーキがヒット商品になり、売り上げがのびたからだ。来年も新商品を開発すればさらに売り上げがのびると考えた。また、新商品がないと、客を飽きさせてしまい来てもらえなくなる可能性がある。1つだけしか開発しないのは、2つ以上にするととても高いし、両方失敗してしまった場合、大損害になるからだ。Cに1000万円配分した内訳だが、正社員、契約社員ともに50万円与える。社会にはまだ、正社員と契約社員で賃金格差が生じ、契約社員が不利な扱いを受けている会社がたくさん存在しているが、これは公正ではないと考えた。なぜCに配分したのかというと、ボーナスのない会社は勤めたくないし、働いてくれている従業員に感謝しなければならないからだ。Dの内訳だが、1株17円×6万株である。いつもより2円増やした。友達の中には従業員の賃金は増額するが、株の配当は増額しないという人がいたが、これはおかしいと思った。第一に、株を買ってくれた人がいるからこの会社が建てられたわけだし、不公平だからだ。株主のことも考えなければならない。Eに配分した理由の1つは、社会貢献する企業は良い印象を持たれるからだ。また、企業は社会的責任を果たす必要がある。さらに、ケーキ教室を開催することで、子どもたちにパティシエの仕事を知ってもらえる。この経験が将来職業を決める時に役立つかもしれない。それに、参加してくれた子どもやその親にこの会社のことを宣伝できる。そもそも無料でケーキ教室を行っている会社はあるのかと疑問に思っ調べてみると、ケーキではないがプリン教室を無料でやっている会社はあった。だから、実現可能なはずだ。なお、30万円にしたのは、1回だけだと効果がないと考えたからだ。Fに配分したのは、もしも何かがあった時にお金がないと困るからだ。Aに配分しなかったのは、売り上げが上がったのは運が良かっただけかもしれないからだ。今後も売り上げがのびたら検討することにした。

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	1000万円
株主への利益配当	102万円
ケーキ教室の開催	30万円
積み立て	368万円
利益配分結果	0万円
会社受益	868万円
労働者受益	1000万円
株主受益	102万円
消費者受益	30万円

(※寸評:この作文は、新商品の開発を検討するにも、売り上げが伸びることと伸びないことの両面を考える慎重さを見せています。賃金の増額については、正社員と契約社員との間で格差を付けないことを明確にしています。株主への配当については、グループ学習での様子を紹介しながら自分の意見を説明していますが、配当の増額の理由の説明は不足しています。そして、2円の増額で、会社と株主、株主と労働者の利益が公平なのかは疑問が残ります。また、企業の無料教室を調べたことを根拠に、売り上げを上げるための効率的な側面から、ケーキ教室の開催を説明していますが、企業の社会的責任の説明は残念ながら弱いですね。)

**F組 R.I.** 店舗の新設をしないのは、今は売れても、売れなくなった場合、1000万円が無駄になるので、もっと安定して売れるようになってきてから、つくった方がいいと思う。今年は、従業員のアイデアで多く売れたので、来年もまた新商品を出せば、きっと売れるはずなので新商品は開発したい。従業員へは、ボーナスとして1人50万円多く渡す。正社員と契約社員で分けてしまうと不公平だと思うので、全員同額にする。株主へは15円から5円多くして20円にする。従業員と株主へ多くお金を渡すのは、彼らがいなければ会社として成り立たないからだ。子ども向けのケーキ教室は3回開く。これは利益を求めるということでは

項目	金額
利潤	20,000,000 円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	1000万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	30万円
積み立て	350万円
利益配分結果	0万円
会社受益	850万円
労働者受益	1000万円
株主受益	120万円
消費者受益	30万円

なく、町全体のためにやることだ。子どもがケーキのことについてもっと好きになってもらったり、親子で一緒に過ごせる良い機会にもなると思う。残ったお金は、翌年への積み立てとしておいておく。来年に何が起きるかは分からないので、ある程度のお金はおいておいた方がいいと思う。従業員の不満をなくして、やる気を出してもらい、この会社が活気づき、また町も一緒に活気づくならば、利益だけが全てではないかもしれないのかなと思う。

(※寸評:この作文は、労働者の利益を優先しつつも、会社や株主の受ける利益ともバランスを取りながら利潤を効率的に配分しようとしています。店舗の新設と新商品の開発とを比較して、リスクの少ない方を選択する方法を考えた慎重さは、従業員と株主の間の均衡にもいかされています。また、従業員の正社員と契約社員との間も公平になるよう考えています。ケーキ教室の開催について、売り上げ拡大を目的にする作文が多い中で、この作文は親子のふれあいの機会を提供できる社会貢献だと説明しています。この作文が訴える企業の役割は説得力があります。ケーキ教室の開催の回数にも無理がなく、積立金の金額も全体とのバランスが取れています。)

**F組 Y.O.** まず、Aの店舗の新設は、1店舗健てるのに利潤の半分の1,000万円を使ってしまいうえに、もしはんじょうしなかった場合のそん害が大きいのでしないことにしました。Bの新商品の開発は、今年開発した新商品がヒットしたおかげで多くの利潤がでたということから考えて、1つ開発することにしました。Cの従業員への賃金の増額は、ヒットしたケーキは従業員が考えてくれたので、全員にボーナスを50万円ずつあげることにしました。ボーナスにした理由は、毎月賃金を上げていってしまうと、後の負担が大きくなると思ったからです。また、正社員も契約社員も仕事内容は同じなので、値段は全員同じにしました。Dの株主への利益配当は、株主が出資してくれたおかげで新商品を開発できたので、その感謝の意を込め、また、配当に満足して次回も出資してくれるように、5円上げて20円にしました。Eの子ども向けケーキの教室の開催は、地域への社会貢献になる上に、自社のケーキのせんでんにもなると思ったので、2ヶ月に1回開催することにしました。Fの翌年への積み立ては、急な災害や事故などに備えるため、余りの320万円をつみ立てることにしました。これらが私の利潤の配分です。

項目	金額
利潤	20,000,000円
店舗の新設	0万円
新商品の開発	500万円
従業員の賃金増額	1000万円
株主への利益配当	120万円
ケーキ教室の開催	60万円
積み立て	320万円
利益配分結果	0万円
会社利益	820万円
労働者利益	1000万円
株主利益	120万円
消費者利益	60万円

(※寸評:この作文は、「仕事内容は同じ」なので、正社員と契約社員との間の格差を出さないように同じ額のボーナスを支給するとしています。「仕事内容は同じ」という前提条件をおくことで、同一賃金にする理由が明確になっています。「毎月賃金を上げ」と、後の負担が大きくなると将来性を考えている点は評価できるのですが、「給料」と「賃金」を同一視しているようにも読み取れます。給料もボーナスも賃金です。ケーキ教室の開催については、売り上げの拡大を目的にした「せんでん」の効率の側面だけが強調されています。地域への地域貢献とするならば、どのような内容が地域貢献に当たるのかを説明する必要があります。積立金はあまり大きくなく効率的な利潤の配分だと言えるでしょう。なお、賃金を「値段」とは言いません。ここでは「金額」と表現しておくよかったと思います。)